

電子書籍
ビジネス
調査報告書
2003
eBook Marketing Report

2005年には540億円に成長する市場の現在

『電子書籍ビジネス 調査報告書2003』 を読み解く

出版不況で本が売れないといわれて久しいが、『電子書籍ビジネス調査報告書2003』の調査によれば、電子書籍のダウンロード販売を中心とした電子出版市場は、10億円と規模は小さいものの右肩上がり成長している。発行点数は2万5000点、毎月発行されるタイトル数は約1万点だという。この報告書を元に、電子書籍ビジネス、さらにはコンテンツビジネス、出版の今後を予測してみよう。

text: 編集部

Digest

市場規模は10億円で発行点数は2万5000点。
フォーマットやファイル形式は多種多様。

今年が 「電子書籍ビジネス元年」

本書では電子書籍ビジネスの現状と将来について、調査・ヒアリングを行うとともに、6000人を超える読者アンケートを実施してその結果をまとめている。その主な内容を見てみよう。

今年が「電子書籍ビジネス元年」といわれているが、去年から目に見えてダウンロード数が伸びてきているという。8年前から

電子書籍のダウンロード販売を行ってきた老舗の「電子書店バビレス」が年40パーセント、なかには500パーセント、600パーセントも伸びたという販売サイトもある。

この大きな要因はブロードバンドの普及だといえる。ブロードバンドになれば大容量のデータでもストレスなくダウンロードでき、電子書籍をオンラインで購入することに対する抵抗感がなくなっている。それと同時に、電子書籍のタイトルが揃ってきたことも大きい。現在、全体で約2

万5000タイトルの電子書籍が販売されているが、これが毎月約1000タイトルずつ増えている。ここにきてようやく電子書籍のダウンロード販売がビジネスとして成立する環境が整ってきたといえるだろう。

また、楽天市場が「楽天ダウンロード」をオープンしたり、携帯電話向けの電子書籍販売サイトが次々とオープンしたり、松下電器産業が読書用端末を発表したりと、このところ電子書籍ビジネスをめぐる動きが目立つようになってきている。

電子書籍ビジネスの現状を多角的に分析・解説した調査資料の決定版!

『電子書籍ビジネス調査報告書2003』

本体価格 35,000円+税 A4判、160P
本書の詳細とご購入はこちら

URL <http://internet.impress.co.jp/books/03015/>

【目次】

- 第1章 電子出版ビジネスの最新動向
- 第2章 電子書籍ビジネスの現状
- 第3章 電子書籍と出版社
- 第4章 電子書籍アンケートの結果
- 第5章 先行する電子辞書市場
- 第6章 電子出版ビジネスの課題

売れ筋はタイムリーなもの

電子書籍でも、紙の書籍が売れたものやタイムリーな企画がよく売れる。また、たとえば音声、動画入り、カラー画像をふんだんに使ったものなど、電子書籍ならではの

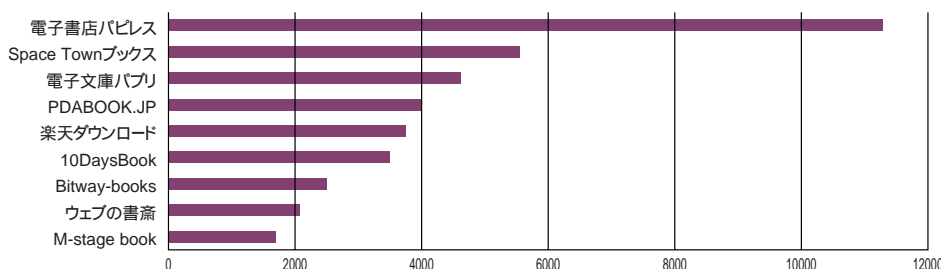
の特性を生かしたものがある。ジャンルとしては、小説、PC・技術関連、マンガ、SF、ビジネス書などが人気だ。

電子書籍を購入するユーザーは、今のところ30代、40代のいわゆるPC世代の男性が中心で、とりわけPDAを積極的に活

用する人々が多い。ただし、携帯電話の場合は、まだサンプル数が少ないが、女性が多く、年代的にも若いユーザーが多い。

また、電子書籍を読むためのプラットフォームやフォーマットがさまざまで、ユーザーにとっては選択が難しいのが現実だ。

主な電子書籍販売サイトのタイトル数 (2003年6月27日時点)



主な電子書籍販売サイトが販売している電子書籍のファイル形式

電子書籍販売サイト	URL	ファイル形式
電子書店パピレス	http://papy.co.jp/	テキスト形式、PDF形式、Adobe eBook形式、デジブック形式、エキスバンドブック(.ebk)形式、HTML形式、XMDF形式、PooDOC形式
電子文庫パブリ	http://www.paburi.com/	テキスト形式、ドットブック形式、PDF形式
10DaysBook	http://www.10daysbook.com/	ebi.jブックリーダー形式、PDF形式、Adobe eBook形式
Bitway-books	http://books.bitway.ne.jp/	ドットブック形式、XMDF形式、PDF形式、Adobe eBook形式、bj2 (BookJacket 2形式、Book Jacket for KIDS形式)
ウェブの書齋	http://www.shosai.ne.jp/	ドットブック形式、PDF形式、Adobe eBook形式
Space Townブックス	http://www.spacetown.ne.jp/	XMDF形式、テキスト形式
PDABOOK.JP	http://pdabook.jp/	ドットブック形式、XMDF形式、テキスト形式、PDF形式
M-stage book	http://www.nttdocomo.co.jp/p_s/mstage/book/	XMDF形式
楽天ダウンロード	http://books.rakuten.co.jp/dl/	ebi.jブックリーダー形式、テキスト形式、PDF形式、ドットブック形式、XMDF形式、Flash形式

ユーザーが感じる電子書籍の便利な点と不便な点

	電子書籍の便利な点	電子書籍の不便な点
購入する	<ul style="list-style-type: none"> いつでもどこでも買える すぐに買える 品切れ、絶版にならない 	<ul style="list-style-type: none"> 購入から読むまでの手続きが面倒 品揃えが少ない
持ち運ぶ	<ul style="list-style-type: none"> かさばらない 手軽に何冊も持ち運べる 	-
読む	<ul style="list-style-type: none"> いつでもどこでも気軽に読める 検索できる ブックマークをつけられる 文字を大きくできる 満員電車で読める 片手で読める 	<ul style="list-style-type: none"> 目が疲れる 画面が小さい 画面が見にくい バッテリーがもたない 操作性が悪い 紙のようにパラパラめくれない 読むのにPCやPDA、携帯電話など端末が必要 端末を立ち上げないと読めない データ形式が不統一、機種、OSが限定される
保管する	<ul style="list-style-type: none"> 保管場所を取らない 	<ul style="list-style-type: none"> データが消える不安がある
廃棄する	<ul style="list-style-type: none"> ゴミが出ない 	-

ファイル形式やフォーマットは多様化

ファイル形式	リーダー	閲覧するハードウェア環境	DRMのレベル()
テキスト形式	ページリーダー、TTVブックリーダー窓の中の物語など	PQ (Windows / Mac) PDA (Zaurus, PocketPC, PalmOS) 一部の携帯電話	×
PDF形式	Adobe Reader	PQ (Windows / Mac)	
Adobe eBook形式	Adobe Reader	PQ (Windows / Mac)	
ドットブック形式	T-Time	PQ (Windows / Mac) PDA (PocketPC, PalmOS)	
XMDF形式	ブコビューアー	PDA (Zaurus, PocketPC, PalmOS) PQ (Windows), Handheld PC 携帯電話 (J-SH53), 電子辞書 (PW-C6000)	
ebi.jブックリーダー形式	ebi.jブックリーダー	PQ (Windows)	
デジブック形式	蔵衛門デジブック	PQ (Windows)	
エキスバンドブック(.ebk)形式	エキスバンドブックブラウザ	PQ (Windows / Mac)	
bj2形式	Book Jacket2	PQ (Windows / Mac)	
Kacis Book形式	Kacisリーダー	PQ (Windows / Mac)	

DRM (デジタルデータの著作権管理) のレベル

× 改ざん可能。ファイルコピー可能。DRMは一切がかけられない。

改ざん不可。ファイルコピー可能。

改ざん不可。ファイルコピー可能だが、購入者データの記録により違法コピーを抑制。

改ざん不可。ファイルコピー可能だが、1台の端末でのみ閲覧できる。

『電子書籍ビジネス 調査報告書2003』を読み解く

I Interview

DRM、購入からの手続きの不便さなど 課題は多い。新しいテクノロジー、フォーマット、 プラットフォームが必要とされる。

読みやすさと利便性の向上 が鍵を握っている

電子書籍ビジネスの課題や今後の動向はどうなのだろうか。本書の調査・執筆を担当した高木利弘氏に聞いてみた。

Q: 電子書籍の今後の課題はなんでしょうか?

A: 「購入から読むまでの手続きが面倒」「画面が小さい、見にくい、バッテリーがもたない」「ファイル形式が不統一、機種やOSが限定される」といったことが課題として挙げられています。ただし、それぞれ解決の糸口は見えてきていると思います。

たとえば購入後の手続きが面倒という

問題に関しては、「楽天ダウンロード」の電子カタログビューアー「楽天ダウンロード」が注目されます。ユーザーの購入手続きを簡単にするとともに、課金もDRM(デジタルデータの著作権管理)も確実にできるようになっているのです。

画面の問題とバッテリーの問題は、電子ペーパーの開発にかかっています。

ファイル形式の問題については、アドビが6月にPDFとAdobe eBookを共通して閲覧できるリーダーとしてAdobe Readerをリリースしたことが大きいですね。

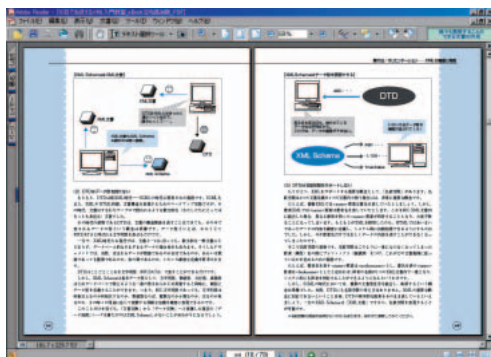
今後は、どのPCにもAdobe Readerがインストールされるので、PC環境ではAdobe eBookが断然有利になります。ただし、PDAや携帯電話となると話が別で、

今のところシャープのXPDFが一步リードしていて、これをポイジャーのドットブックが追いかけているという状態です。いずれにせよ、まだまだ読みやすさや読者の利便性という点では、どのファイル形式も不十分だと思います。もっと桁違いに性能が向上する必要があるのではないのでしょうか。

Q: DRMについてはどうお考えですか?

A: DRMについては、今、大きく分けて2つの方法があります。1つは、購入者データをファイルに記録することで違法コピーを抑制しようという方法で、もう1つは、1台の端末でしか閲覧できないようにする方法です。どちらの方法がいいかは一概にいえません。利用者の立場からすれば、1台の端末でしか閲覧できないというのは不便で

アドビの新フォーマットと楽天の新型ダウンロードサイト



アドビが2003年6月にリリースしたAdobe Reader。PDFとAdobe eBookを共通して閲覧することができる。図はAdobe ReaderでAdobe Bookを閲覧しているところ。
© 翔泳社® 10日でおぼえるXML入門教室



楽天は2003年4月に「楽天ダウンロード」で電子書籍を含むデジタルコンテンツのダウンロード販売を開始した。独自の電子カタログビューアー「楽天ダウンロード」(画面)は購入手続きを簡素化し、課金もDRMも確実にできる仕組みを持つ。

すし、著作権者の立場からすると、違法コピーは完全にできないようにしたい。要はこの相反する要望をどちらも満たすようなテクノロジーが出てくればいいわけです。

携帯電話は 外せないプラットフォーム

Q: 電子書籍を読むには、どのプラットフォームが有望だと思いますか？

A: PC、PDA、携帯電話、読書用端末のうちどれが有望か、ということだと思うのですが、現状のものはどれも該当しないのではないのでしょうか。

まず、持ち運びができないという点でデスクトップPCは失格です。ノートPCは、本当にノートのように軽く、さっと開いて、さっと使えるようなものになっていく必要があります。OSの起動に時間がかかるとか、バッテリーが1日ももたないという状況が改善されないかぎりダメでしょう。PDAは、現状のものは中途半端なポジションなわけですが、携帯電話機能がビルトインされ、テレビも見られる、ノートPC代わりにも使えるといったものに発展していけば、結構有望かもしれません。この間、サムソンが「究極の携帯電話」と称して、それに近い製品を発表していました。携帯電話は、画面サイズが小さいという問題がありますが、これは

これで有望なプラットフォームでしょう。あとはメモリー容量とパケット料金の問題です。SDカードで辞書や電子書籍を使えるような機種も出てきていますし、「コンビニのキヨスク端末にSDカードを差し込んで、新刊のベストセラーを購入する」といった流通システムもスタートしています。電子書籍ビジネスを考えるうえで、携帯電話を外すわけにはいかないですね。それから、松下電器産業が開発した読書用端末ですが、開いてすぐ読めるという点や、バッテリーが長時間もつという点は画期的だと思います。ただ、インターネットにもつながりませんし、データの再利用もできない。今の仕様のままでは、爆発的に普及するということは考えにくいですね。

Q: 出版社の持つコンテンツは今後どうなっていくと思いますか？

A: 出版社の強みは、紙の書籍の流通チャネルを持っていることと、これまで出版してきたコンテンツの蓄積、コンテンツを企画・編集・プロデュースする力、そしてブランド力です。こうした出版社の資産を、どう新しい時代の流れに合わせて、活用できるのかというのが、大きな課題となっているわけですね。PCと携帯電話では、コンテンツの表現の仕方も違ってきます。出版社は、今まで以上に「顧客のニーズに合うコンテンツを、顧客のライフスタイルに合う

メディアで、いかにタイミングよく提供するか」を考えていく必要があると思います。

電子書籍のダウンロード だけではない可能性も

Q: 市場全体は、今後どうなっていくのでしょうか？

A: 紙の出版市場が6年連続で縮小している一方で、電子書籍ビジネスの市場は、まだ小さいとはいえ年40パーセントから60パーセントの割合で成長しています。それに、電子書籍のダウンロード販売だけが電子出版というわけではないんですね。

eラーニングも広い意味では電子出版の一形態です。いずれにせよ、電子化の流れはもう止められないわけです。これまでのテクノロジーの発達史からいって、向こう10年以内に電子出版市場がブレイクポイントに達するのは間違いのないでしょう。



高木利弘氏

株式会社クリエイション代表取締役、株式会社カシス取締役。『電子書籍ビジネス調査報告書2003』の調査・執筆を担当した。

電子書籍関連の新製品が続々登場



シャープは電子書籍(XMDF形式)を読むことができるJ-フォン携帯電話J-SH53の発売に合わせて、この6月から「Space Town ブックス」で、専用の電子辞書や電子書籍販売などのサービスを開始した。



松下電器産業が開発した見開きタイプの読書用端末「book (シグマブック)」。単三電池2本で3~6か月の使用が可能。約1万ページの閲覧ができる。

電子書籍ビジネスセミナーを開催します

インプレスでは、電子書籍市場で活躍するエキスパートを講師に迎えて「電子書籍ビジネスセミナー」を開催します。楽天ダウンロード、松下電器産業、シャープなど、電子書籍ビジネス市場に参入している企業の実際の取り組みをご紹介いただき、パネルディスカッションを通じて今後の電子書籍の未来像をより深く考察します。

【日時】2003年9月11日(木)

15:00 ~ 18:00

【場所】日本出版クラブ会館

(東京・飯田橋)

【詳細はこちら】

URL <http://www.seedplanning.co.jp/forum/digitalbook/2003/forum.html>



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp